

# 大学のガバナンスと教育研究活動

リウドヴィカ・ライシト 氏

(ドルトムント工科大学高等教育研究センター・教授)

**講演概要** 本セミナーでは、欧州における大学ガバナンスの変化とそれが教員の教育研究活動に与える影響について検討する。はじめに、制度ロジックの視点と高等教育のガバナンス類型に基づき、欧州では強力なマネジリアリズムや外部ステークホルダ主導のガバナンスが浸透している一方、ドイツのようなフンボルト理念を受け継ぐ大学では、教員主導のガバナンスも依然として強力である点を議論する。NPM 型の改革により、論文生産性など、ある種の数値目標は改善したかもしれないが、その背後で教員の自律性を損なうという深刻なコストを負担している可能性がある。こうした改革により、一部の専門分野では、何を教育研究活動の成果とするか、どのような知が生み出されたかという大学の成果自体も変化する可能性がある。これは、教員集団の価値観を破壊し、大学教授職への魅力を削ぐ結果へといずれつながる可能性がある。

2018 年 3 月 6 日 (火) 13:30 – 15:30

場 所 : 名古屋大学東山キャンパス 文系総合館 5F アクティブラーニングスタジオ

参加のお申込は下記ウェブサイトよりお願いいたします。

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/seminarform.html>

**使用言語 : 英語**

○いただいた個人情報は、本企画運営の目的にのみ使用いたします。

○ご来場の際には、できる限り公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

構内駐車された場合の用務証明書発行はいたしかねますので、ご了承ください。

お問合せ先 : [info@cshe.nagoya-u.ac.jp](mailto:info@cshe.nagoya-u.ac.jp) Tel: 052-789-5696